



次年度の焦点

ロータリー財団管理委員長エレクト

ポール A. ネットセル

2017年1月17日

ロータリーリーダーの皆さん、おはようございます。サンディエゴへようこそお越しくださいました。

ここで共に過ごす時間は、ロータリーリーダーとなる次年度に向けた最後の研修でアイデアを交換し、新たな友情をはぐくみ、世界的なネットワークを経験する時間です。

皆さんと同じように、私にも新たな仕事を与えられています。私の仕事はロータリー財団管理委員長を務めることですが、ロータリーでの役割に備える上で、皆さんとも多くの共通点があります。

今回、サンディエゴ国際空港を利用した方はどのくらいおられますか？

長年、この空港は、飛行家チャールズ・リンドバーグにちなんで「リンドバーグ飛行場」と呼ばれていました。ここで、リンドバーグのストーリーをご紹介します。それは、ビジョン、才能、類まれな勇気のストーリーです。

このストーリーは、ニューヨークにあるホテルのオーナーで、フランス生まれのレイモンド・オルティグという人が、ニューヨーク〜パリ間の飛行に初めて成功した人に25,000ドルの賞金を出す、と発表した1919年に始まります。

皆さんや私と同じように、リンドバーグはこのチャレンジに成功できると信じていました。必要なのは、飛行機をつくる資金だけでした。そこで、セントルイスのビジネスマンたちに自身のアイデアを提案したところ、ハロルド・ビクスビーという当時の商工会議所の会頭が、リンドバーグの夢をかなえるために投資家たちを集めました。こうして、リンドバーグの飛行機は「スピリット・オブ・セントルイス号」として知られるようになりました。

リンドバーグは、ここサンディエゴのライアン・エアクラフト社で働く一人の飛行機設計士を見つけました。その人の名は、ドナルド・ホール。ニューヨーク〜パリ間を無着陸で飛ぶ飛行機を必

要とする、この狂気じみたミズーリ州出身の飛行機乗りについて聞いたとき、ホールは入社後わずか数日でした。しかも、その飛行機を3カ月以内に作ってほしいと言われたのです。

「任せておけ！」とホールは快諾し、エンジン一機、固定翼1枚の小さな飛行機を設計しました。期日に間に合わせるのは絶対に無理、と「専門家たち」は言いましたが、ホールはわずか2カ月でこのチャレンジを果たしました。

その8年後、チャールズ・リンドバーグはパリに着陸しました。サンディエゴのリンドバーグ飛行場は、彼の飛行機がニューヨークに向けて、そして歴史的偉業に向けて、最初に出発した地でした。

これは、その偉業を可能とした人たちのストーリーです。ただし、ハロルド・ビクスビー、ドナルド・ホール、そしてチャールズ・リンドバーグさえ、最初のアイデアと資金をもたらしたレイモンド・オルティエグがいなかったら、どうなっていたでしょうか。オルティエグがいたからこそ、彼らの功績が可能となったのです。

一つのアイデアをもった一人の人物のパワーを物語るこのストーリーは、私たちのロータリー財団にも通じるものがあります。

レイモンド・オルティエグには、アイデアがありました。ロータリー財団のアイデアを提案したアーチ・クランフもそうでした。

皆さんにもきっとアイデアがあるはずです。皆さんには熱意もあります。信念さえあれば、目標を成し遂げることができるのです。

ロータリー財団は、過去、現在、そして未来にロータリーの達成の一部となる機会を、すべてのロータリアンに与えてくれます。すべてのロータリアン、すべてのロータリークラブに、アイデアの力を実現するチャンスを与えてくれます。

ロータリーのリーダーである私たちは、クラブを強化し、公共イメージを向上させ、人道的奉仕を増やす責務があります。ロータリー財団は、これら3つすべてを達成するための手段です。

ロータリー財団は、100年にわたり、無数のアイデアを支えてきました。私たちは、病気の予防、健康の改善、教育の提供、地域社会の発展、水と衛生、平和の推進を目的とした世界中のプログラムのために、41億ドル以上を集め、活動に充ててきました。

ロータリー財団は進化し続けています。新しいオンラインの補助金申請ツールを既にご覧いただいたことを願っています。新しくなった申請ツールは、皆さんのアイデアとご意見を基に管理委員会と職員が検討した結果が反映されています。

次に、2017-18年度の財団の優先目標を見ていきましょう。

まず、ロータリー財団は3億1500万ドルの包括的な募金目標を掲げていきます。年次基金の目標は、人びとの人生を変えるような数多くのプログラムを引き続き支援していくために、1億3500万ドルに設定されます。

全世界の5分の4のロータリークラブが、年次基金に寄付しています。年次基金に少なくとも100ドルを寄付するという「Every Rotarian, Every Year」の寄付は、今後も優先されることとなります。全世界の会員のうち、ロータリー財団に直接寄付を行っているのはわずか35パーセント強ですが、この数字をもっと増やせるはずです。寄付をするロータリアンの数を増やすために、どうかご協力をお願いします。

私たちはリーダーとして、財団に対する会員の知識をもっと深めていく必要があります。ロータリアンであることは、私たち一人ひとりが慈善家になれることを意味します。真の慈善家と言えるかどうかは、寄付額の大きさではなく、その人の経済力にふさわしい寄付をしているかどうかで測られるものです。

120万人の慈善家のネットワークを想像してみてください。

ポリオを永遠になくすという目標に、今どれほど近づいているかを考えてみてください。ポリオ撲滅は今後も第一の優先活動となります。ポリオの募金目標は、引き続き年間3500万ドルです。ゲイツ財団からの2倍額の上乗せを合わせれば、2017-18年度に1億500万ドルが生み出されることとなります。

ポリオ撲滅活動は、マラソンを走るのと似ています。私たちは今、ラストスパート地点にいます。ここが一番つらいところかもしれませんが、ゴールラインが視界に入っています。何としても目標を達成しなければなりませんし、必ずや達成してみせます。

ウイルスの感染を食い止めた後も、まだ「ゼロ」が達成できたわけではないことを忘れてはなりません。世界がポリオフリーと認定されるには、ポリオの新規症例がないまま連続で36カ月を経る必要があるからです。このため、最終地点においても、これまでと同じように揺るぎないリソース、資金、サポートを注ぐ必要があります。

最近、ナイジェリアでポリオが再発したことは、警戒と監視の重要性を改めて物語るものです。何としても目標を達成しなければなりませんし、必ずや達成してみせます。

主なパートナー団体とも引き続き協力していきます。ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの上乗せのおかげで、ロータリーはポリオ撲滅に16億ドルを既に寄付しています。何としても目標を達成しなければなりませんし、必ずや達成してみせます。

もう一つの優先事項は、財団の恒久基金への寄付をロータリアンに呼びかけることです。これは、ロータリアンが自分の価値観を永続的なかたちで残し、未来の世代のためにリソースを提供するとても良い方法です。2017-18年度は、「2025 by 2025」という恒久基金目標に向け、丸1年をかけて取り組む初めての年度となります。私たちは、恒久基金を2025年までに20億2500万ドルにするという高い目標を掲げました。恒久基金が強くなれば、財団の長期的な安定と、未来に必要な不可欠なリソースが確保されます。

2017-18年度とそれ以降に、これらの目標やその他の目標を達成するためのカギは、「ロータリーとは何か」「ロータリーは何をする団体なのか」についての理解を高めることです。手短かに言えば、ロータリアンと入会候補者だけでなく、世界に向けて、もっと効果的にロータリーのストーリーと活動成果を伝えなければならない時が来ているのです。

ロータリーは、活動的で生き生きとした組織であり、今日の問題に取り組む一方で、明日への準備も整えています。ロータリアンは、外部の専門家も認める数々の素晴らしい成果を上げています。

例えば、昨年、世界的な大手ニュース放送局であるCNBCは、ロータリー財団を「世界を変えている慈善団体トップ10」の第3位に選び、ポリオ撲滅における私たちの多大な貢献を紹介しました。

さらに今年、ロータリー財団は、慈善団体の格付けを行う大手団体「チャリティーナビゲーター」から、9回目となる4つ星の最高評価を受けました。この評価は、当財団の財務健全性、説明責任と透明性に対する徹底した姿勢が認められたものです。このような最高評価を受けられるのは、評価対象となる何千もの慈善団体のわずか1パーセントにすぎません。

ですから、私たちの達成について公共の認識を高める必要があることは明らかです。認識向上とはまた、達成を堂々と自慢することでもあります。

ロータリアンである私たちにとって、自慢は必ずしも快いものではありません。しかし、私たちのストーリーを伝えるべきときが、今、来ているのです。

ロータリーは、世界中の人びとから成る素晴らしいネットワークです。皆さんのようなロータリアンは、地域社会や世界に変化をもたらしています。時間、才能、資金を捧げてくださる皆さん一人ひとりに、心より感謝いたします。

朋友ロータリアンの皆さん、2017-18年度は、ロータリー財団の第二世紀の初年度となります。このような年度にリーダーを務められるのは、素晴らしいことです。ポリオ撲滅のゴールラインは間近に迫っています。このゴールラインを切った後、次には何があるのでしょうか。次の10年、25年、50年、100年に私たちを導くものは何でしょうか。

その答えがわかる日は、目前に迫っています。ロータリー財団が強くなればなるほど、私たちは「ビッグに考える」よう促されるでしょう。私から見れば、「ビッグ」でないことを考えるのは、ロータリーが秘める可能性の無駄遣いのように思われます。

最後に、ロータリー財団を通じて私たち一人ひとりがもたらせる変化のストーリーを、一つお話ししたいと思います。

ガバナー時代、私は、ポリオサバイバーに矯正手術を行うために、ロータリアンのチームを率いてインドに赴きました。このプロジェクトは財団の補助金を活用したものでしたので、私自身のストーリーであると同時に、皆さんのストーリーでもあります。

このプログラムは大きな成功を収めました。750人以上の子どもに、長く生産的な人生を送るチャンスを与えることができました。

ある村を訪れたとき、パレーク君という9歳の少年に出会いました。ポリオサバイバーであるパレーク君は、矯正手術を受けに行くところでした。なお、臍によっては矯正手術は20～30分程度で終わるものもあることを、一応申し上げておきます。そのとき私は、ドアの近くに立ち、この少年が手と膝を使って地面をはい進んでくるのを見ていました。彼の少し後から、母親と父親も歩いてくるのが見えました。

パレーク君のほうから私に近づいてきました。私は医者の格好をしていませんでしたが、おそらく、支援のために外国からやってきた一行の一人であることが分かったのでしょう。彼は、わざわざ私のところまではって来ると、思いがけない行動に出ました。頭を下げ、私の靴にキスしたのです。

時間がとまり、背筋がぞくつとするのを感じました。

すると今度は、母親が私のところにやってきて、ひざまずいたかと思うと、同じように靴にキスをしたのです。

次にパレーク君の父親もこちらに来て、ひざまづいて靴にキスをしました。

言葉を失いました。地元のロータリアンが私の耳元で次のようにささやくまで、私はそこに立ちすくんでいました。彼はこう言いました。「これが、彼らの人生を永遠に変えてくれることへの、彼らなりの感謝の表現なんですよ」

パレーク君とその家族、そしてこの病の苦しみから救われたすべての家族が、皆さんに感謝しています。ロータリー財団を支援している皆さんに感謝しています。世界中の人びとの暮らしをより良くする計画を立てている皆さんに、感謝しています。ご寄付であれ、奉仕活動であれ、皆さんからのご支援があったからこそ、こうした活動が可能となるのです。

私たち一人ひとりが担う役割があります。ガバナーエレクトである皆さんは、アイデアが実を結ぶようにするという、極めて重要な役割を担っておられます。

おそらく皆さんの中には、レイモンド・オルティエグのように、私たちが目指すことのできる目標を設定してくださる方がいるかもしれません。

また、ハロルド・ビクスビーのように、大々的に資金を募り、活動をもっと大きくするために多くの人を集める方もおられるでしょう。

また、ドナルド・ホールのように、次年度とその先に向けた取り組みを設計する方もおられるでしょう。

また、ひょっとしたら、チャールズ・リンドバーグのように、入念につくられた計画を実行に移し、会員や地域社会に対するロータリーの「顔」となってくくださる方がおられるかもしれません。

自分にできることが何であれ、私たちは次のような精神で奉仕します。それは、「手柄を立てるためではなく、結果を残すために行動する」という精神です。

これが私の精神です。チャールズ・リンドバーグは、自身の精神を「スピリット・オブ・セントルイス (Spirit of St. Louis)」と呼びましたが、私たちはこれを「スピリット・オブ・ロータリー (Spirit of Rotary)」と呼ぶことにしましょう。私たちは皆、ロータリーの奉仕を通じて変化をもたらしたいと願っています。

「世界でよいこと」をするロータリー財団の第二世紀に、皆さんと一緒にこの旅に出られることを、とても嬉しく思います。

リンドバーグと同じように、皆さんはここサンディエゴから旅に出発します。そしてリンドバーグと同じように、ここを出発した後に歴史的偉業を成し遂げるかもしれません。

皆さんは目標を必ずや達成します。

地域社会と世界が皆さんを待っています。

ロータリアンとして、また、ロータリーのリーダーとしての役割を務める私たちにとって、今ほど素晴らしい時はありません。